

2015年3月1日発行

第580号(通算)

発行:奇数月1日

会員購読料:1月10円(年間60円)

一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会
近光 章
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

平成26年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業一覧

部門	団体名	事業名	活動の概要
導入型	世羅町黒川地区	地域環境クリーン作戦	町道、県道を中心に清掃活動を行い、参加者が一緒に楽しめる事業として取り組み、環境への啓発活動を行う。
	尾道市	「ちょっと遠くへ!お出かけウォーキング」マップづくり	ウォーキングへの意欲を高め、実践に結びつける取り組みとして、市内おすすめの「ウォーキングロードマップ」を作成する。
	神石高原町	環境を守る事業	町内全域の道路・河川の清掃、草刈りおよびごみの分別収集を行い、より一層の環境美化保全推進を図る。
発展型	大崎上島町	紙芝居作成(アイドリングストップ物語)	アイドリングストップ運動の10年間の歩みをまとめた紙芝居を作成し、環境への意識啓発を行う。
	廿日市市佐伯	2014佐伯リサイクルまつりおいでよ見てよマナーんじよ	リサイクルまつりを開催し、ごみの減量化、資源の有効活用を推進し、地球環境を守ることの動機付けを行う。
	北広島町	北広島町笑顔で取り組む脱温暖化のまちづくり事業	エネルギーの無駄遣いをなくす生活習慣を改め、日常生活から排出される二酸化炭素を減らす取り組みを行う。
	東広島市	アイガモ農法による米づくり事業	アイガモ農法による米づくりを行い、食をとりまく環境や健康についての啓発活動を行う。
	世羅町西大田地区	きんさいや西大田地区へ	水辺教室やエコツアーを開催し、他地区との交流を図り、西大田の公衛協活動を世羅町全体に波及させる。
	福山市泉学区	『学社融合』小さな行動大きな“力”に!!継続は力なり	緑のカーテン、マイ箸づくりなどの活動を行い、温暖化防止の必要性を楽しく興味を持って学習し、アクションを起こしてもらう。
	福山市道上学区	環境家計簿蓄積データ活用事業	2年間分の環境家計簿蓄積データを活用して、道上学区民の節電意識の向上、環境家計簿取り組み家庭の増加を図る。

支援の充実・事業展開そして地域の発展へ

当協会の地域活動支援基金活用事業について、平成26年度の実施状況を報告する。

◆環境と健康の「ミニコ」 ティ活動助成事業◆

この事業は、平成20年度から実施しており、「導入型」「発展型」「広域型」の三部門で助成を行っている。今年度は、導入型3件、発展型7件の計10件が採択された。

◆環境啓発ポスター・標語コンクール事業◆

この事業は、平成20年度から実施しており、昨年度に続き、テーマは、平成20年度は22団体が参加した。

この事業は、平成20年度に続き、テーマは、平成20年度は22団体が参加した。

また「コンクールで集

まつた作品を活用する「事後フォロー活動」に参

◆市町公衛協事務局◆ ポーター養成事業◆

この事業は、平成21年度から実施しており、今

年度の支援対象公衛協

は、竹原市、東広島市、北

広島町の2市1町である。竹原市および北広島

町は今年度で4年目、東広島市は3年目の支援となる。

今年度も個別支援や各種研修を行い、公衛協

活動や事務手続きを行なう。また、これまで6年間で8市町公衛協を支援

平成26年度 地域活動支援基金活用事業報告

り、祭りやイベントで、展示や表彰式を行うなど、さまざま活用と広報が展開されている。

この事業は、年を重ねるごとに応募作品が増加し、感性豊かな作品が多

くみられ、作品のレベルも上がっている。今後も、地域の盛り上がりを期待してさらなる事業の展開を図りたい。



ポスター・標語コンクール受賞者の記念撮影(上)、企画づくりを行う受講者(下)

琴線歌
この事業は、平成21年度から実施しており、今年度の支援対象公衛協は、竹原市、東広島市、北広島町の2市1町である。竹原市および北広島町の2市1町では、食品の異物混入が社会問題になっている。大手ファーストフードチェーンの食品とロングセラーのカップ焼きそばで相次いで異物混入がみつかり、大手企業やセンセーションマスコミ報道、消費者のゼロリスク信仰などがない交ぜになつてバイアスをかけ、事の大きさ以上の社会問題になってしまった感が強い▼強調しておきたいのは、今回の問題はあくまで食品の安全性と食品ロスなどのバランスの上に成立すべき議論だといふ点である。食品は完璧に安全でなければダメというゼロリスク信仰は、バランスの良い建設的な議論の芽を摘んでしまった。私が違和感を覚えるのは、異物混入したことのほか神経質になる方で、毎日大量の健康食品が販売・消費され

「食品の異物混入報道に思う」
食品の異物混入が社会問題になっている事実はさほど問題視されないことにになっている。大手ファーストフードチェーンの食品とロングセラーのカップ焼きそばで相次いで異物混入がみつかり、大手企業やセンセーションマスコミ報道、消費者のゼロリスク信仰などがない交ぜになつてバイアスをかけ、事の大きさ以上の社会問題になってしまった感が強い▼強調しておきたいのは、今回の問題はあくまで食品の安全性と食品ロスなどのバランスの上に成立すべき議論だといふ点である。食品は完璧に安全でなければダメというゼロリスク信仰は、バランスの良い建設的な議論の芽を摘んでしまった。私が違和感を覚えるのは、異物混入したことのほか神経質になる方で、毎日大量の健康食品が販売・消費され



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

かんほきょう

検索

基本理念

~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
私たち、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。